

令和5年度 町政地区懇談会⑤(対象地区 沢田)

■日 時 令和5年6月19日(月) 19時30分～21時00分

■会 場 沢田公民館

■懇談会参加者 25名

■開会～説明

(1)町長挨拶

(2)出席者紹介(副町長)

(3)予算概要説明(総務課長)

(4)重点施策説明(総務課長・企画調整課長)

■意見交換

Q1

日頃、涅槃堂の方にご理解とご協力いただきまして、ありがとうございます。色々、涅槃堂の活動の中で、今後を考えていくと、高齢化ですとか、先ほどの話ではないですけど、人手不足がどうしても見えてきて、いつまでできるのかなっていうのもあって、子どもさんたちへの教育の場とか、参考にどれだけ利用できるか、そんなことを考えると、色々な面で合理化とか施設の充実とか、そういったことが街の協力を得たいとか思っているんですけど、地元と町と一緒に、先ほどの共創の話じゃないですけど、そういった考えでいてもらいたいと思うんですけども、それに関して、町長にお考えを伺いたいと思います。

A(町長)

それでは今、涅槃堂の話が出ましたけど、まず河津桜まつりの関係についてお話をしたいなと思っております。河津桜まつりもこのコロナの関係で低迷をした中で、今年は通常に近い形で、できたのかなと思っています。約51万人の方が見えたということで、大変多くの方が来ていただいております。それもですね、以前と違って外国人の方が増えたなっていう感じがいたします。もう1つは、世代がこれまでは中高年が多かったんですけど、家族連れですとか、若い人は増えたなっていうイメージでございます。それが今後の河津桜まつりを活性化する1つなのかなって感じがしておりますし、特に外国人の方は、自分が想定しているよりも実際にたんじゃないのかなと、そんな気がしております。今年は、中国本土以外の方たち多かった気がするんですけど、桜まつりも少し変わってきたなということで、1つの今後の課題かなと思っています。そういう中で河津桜まつりは河津だけの問題ではなくて、伊豆半島全体の経済効果が言われております。約212億と言われておりますけど、そのうち町内に27億っていうことなんですけど、内容を見えますと宿泊

関係の利益が1番大きくて、経済的な面で見ると、宿泊関係が多いところがどうしてもお金が落ちているという状況にあります。実際は順番で行くと、伊東、東伊豆、下田、河津という順番になっています。というのは、河津町は宿泊施設が少ないですから、どうしてもそういう面では、一生懸命、河津桜まつりを毎年やっているんですけど、経済効果的にはまだまだ弱いなと思っています。ただ、その中で来てくれた人たちの町内の消費、買い物や食事、そういう面では河津町は大変大きな利益を受けております。そういう中で、これからの考え方ですけど、この町内でいかにお金を落としてもらおうかっていう、そういう工夫がいるのかな。

その1つとして、私は沢田地区の取り組みというのは、大変大きな効果があるのかなと思っています。というのは、滞在時間をいかにして伸ばすかっていうことだと思います。それから町内巡ってもらおうということが、この街にとって大変大きな利益をもたらしますし、お客さんの求めているもその辺なのかなと思います。桜1つ見ても、今までは桜を見て美しいとか綺麗だ、という人が多かったわけですね。今年あつて聞いてみますと、桜の見どころとして3つあるという声を聞きました。橋の上、トンネル、もう1つは河川敷からから見る河津桜が綺麗だなっていう、河川についても下田土木事務所が少しずつ草を刈って取り入れるようにしてくれたりして、そこで休憩をしたり食べたりすることができることで、皆さんの協力のもとで、そういうことが成り立ってくるのかなってことで、これからはいかにして、多く町内で消費してもらってことが大事なかなと思っています。私どもも観光施策に力を入れておりますし、海外でも特に台湾を中心として多くの方が来ているものですから、台湾へのアピールもしているところでございます。

そういう中で涅槃堂さんについても、今後も共創のまちづくりの中で、いろんな面で協力してやっていきたいなと思っていますし、ただ長く続けてほしいものですから、あまり無理をしないで長く続けるように、できれば後継者を作ってもらうことが大事なかなと思っています。今は国の観光の補助金も、今まで県を通してって補助金が多かったんですが、国から直接もらえる補助金も多くなっております。そういう中で、補助金制度もだいぶ変わってきておまして、国の制度をいかに乗るかっていうのも1つの考え方がございます。国ですと、社会実験的なこともできたりとか、大きなお金が動きます。E-BIKEの事業も観光庁の補助金を使っております。今年度も観光庁の補助金でイベントの再生化といいますか、そんなことも観光庁の補助金をもらってやるようになっています。

もう1つ、3000万円規模で申請をしておりますけど、エントリーが通るかどうかわかりませんが、そういうことで国からのお金ももらいながら、取り組んでいかなきゃならないなと思っていますし、あまり無理をしない程度に町と一緒に、これからの地域の皆さんも含めて、取り組んでもらえたらありがたいなと思います。逆に私どもも感謝をしておりますし、特に最近では沢田地区とか逆川地区は大変元気で、いろんなことやっています。逆川地区は、関係人口を作るということで、都市と農村の交流事業で地域の方たちと一緒に、農業の事業、体験も含めて河津の子どもたち、東京の子供たちを指導

しながら餅つきをやったり、いろんな形で交流事業をやっておりますし、沢田地区はどんなことが今後できるかわかりませんが、そんなことも含めてですね。地域のそういう活性化も大事だと思いますので、町も相乗りしながらですね、できることは協力していきたいなと思っています。そんなことでよろしいでしょうか。

(町民)

そういった時に自分たちでも色々考えて、2ヶ月に1回、考える会っていうのがあって、何かできることか、考察をしたりしてはいるんですけども、町からもこういうことやってみたい、色々提案とか、繋いでもらおうとか、教えてもらおうと動きやすいということもあると思います。自分たちで考えてもできないだろうとか、そういったマイナス面も補完できるので、そういったことをしていただければいいなと思います。

(町長)

今までは、街だけが考えることで進めていた事業も多かったと思うんですよ。これからはやっぱり民間の発想力などを生かさないと、なかなか応えられないことが多いような気がします。そういう時代になっているのかなという気がしますし、私どもも包括連携協定を結んだのもそういうことがありました。やっぱり民間の柔軟な発想とか、いろんな力がありますし、特にイズーさんと協定を結びましたけど、大変大きな効果があるような気がします。それでイズーさんは宣伝力がすごくて、河津町とアクセスすると桜の次ぐらいにイズーさんが出てきたりとか、そういう面でイズーさんの力って大きいなと思いますし、特に今後は伊豆縦貫道ができる中で、いかに人を降ろすかということを考えた時に、町だけではなくて民間の力を借りながらお客さんを、インターで下ろすということを考えないとまずいですから、そんなことを含めて民間との協定もこれから大事にしていきたいなと思いますし、渋谷区との連携もうまくいってまして、いろんな行事もできたりとか、雇用に繋がったりとか、都市と農村の交流事業もあったりとか。渋谷区にあります服部学園さんとも連携協定を結んで、子どもたちの将来のこと考えると、服部学園さんの力もいろんな経験をする中でも大事になってくるような気がします。食育ですとか健康の面でも、服部学園さんとの連携を、大いに利用していけたらなと思っております。

もう1つは先ほど言いましたけど、DMM.com というところと、企業人の協定を結んで、月の半分をすべてその会社が持って、女性の社員が1人来てくれています。その中で河津のPRを中心として、やってもらっておりますけど、それを国の制度を利用して、国税処置がある制度ですけど、その制度を利用して来てもらっています。ですから、都会の方が直接、企画調整課の中に月半分ぐらいは席を置いて仕事をしているって状況にあるものですから、民間の力を借りて、その民間の方も会社へ戻って、会社の中でまた協議をしていただいて提案をいただけるってこともあるものですから、全部民間の方でお金も出張費も全部持ってくれるものですから、町の方でも予算は持っていますけど、町は補助金

を使いながら制度も活用してということで、今までと違って町だけではなくて、民間を入れながらいろんな挑戦をしていきたいなと思っています。

そういう意味で河津町内では、沢田さんとか逆川さんの部分が大きな力をもって、大変活躍しているなという、そういう思いがございまして、ぜひとも皆さんの声も聞きながら、やっていけたらと思います。

Q2

令和2年に河津桜町づくり計画が出されました。今町長が言われたように、城山とかそういう話が出たんですけども、沢田に桜の見晴らし台があります。その辺の高いところから見て、景観がいいというところに対して、この計画の中には、景観の形成の取り組みを進めますということが載っていますけども、今現在どのような形で取り組みされているのか。今後、こういう形でこういう計画があるというような形がもしありましたら、お聞かせください。そういった中で、事業の目的や認識することを町と共有して、行政と地区に責任ができて、お互いにスムーズに行くんじゃないかと思っています。もしこの辺で計画でなんかあるんでしたらなんですかとお聞かせしてくれればと思います。

A(町長)

ちょっと話は長くなるんですけども、この河津桜まちづくり計画を作るきっかけとなったのが、河津川の河津桜が今後、枯れたり流出した場合には、植え替えができないということで、町の象徴的なものになっている河津桜をどうしていこうかというのが発端となって、県と一緒にこの計画を作ったのが始めてございます。将来的に河津川の桜がなくなってしまう可能性もあるということもありますので、その辺も含めてどうしていこうかとことで、河津桜まちづくり企画という大きな目標として立てた計画でございます。その中で今やっているのは、河津桜守人の会というのはございますけど、その会がいかにその堤防になるところを延命化させるか、持たせるかっていうのを主にやっております。それは毎月1回の定例会を設けて、選定ですとか管理をしてもらっています。そういうことが主な今の状況でございます。今後の話ですけど最近では道路のところ埋めたりはしておりますけど、今考えているのは循環道の付近に埋められないのかなとか、そんなことを思っております。それと、やっぱり河津桜を今後どのように数を増やしていくかというのは大きなテーマになっています。現実的になかなか植えるところがないのが現状でございまして。そういう中で、沢田地区でああいう形で進めてくれたのも1つの方法かと思えますし、城山なんかを眺めるところとして聞いておりますけど、峰あたりでも斜面に植えているものですから、そういうのが解放できればまた違ってくるのかなと思っています。

それと、もう1つは、河津桜町づくり計画の根本となっている河川敷の桜をどうするかっていうのが、これは県の河川計画とも関係あるものですから、県と一緒にやって

いかなければなりません。そういう中で河川の桜は、県と一緒に今後どうしていくかと考えます。私どもが当初考えていたのは河川側ではなくて、裏側と言いますか、のりをうまく活用できて桜が植えられないのかなという、この計画の中でもそういう提案をしておりますけど、そういうことも県と協力しながらやっていければ、将来のために残すことはできるのかなと思っております。具体的にこれといったものがなくて申し訳ないですけど、元々そういう中で町全体の河津桜を増やしていきましょう、河津桜は象徴として残していきましょうという根本の発想の中でこの計画ができたもので、特に河川については県の河川計画と関連があるので進んでないところもありますけど、できる範囲でやっているという感じでございます。

Q3

伊豆循環道について希望ですけど、河津七滝インターと河津逆川インターができて、天城から来る車の4割が下田方面に流れているという話を聞きました。逆川から下田の間も繋がればもっと流れると思います。皆さん、ドライブに行った時に、休憩やお土産を見るために道の駅を探すと思うんですけど、交流館が道の駅にならないのか。そして、東伊豆や天城から下田へ向かう車を少しでも交流館に行ってもらうように、中央道も早く整備して、道の駅を活用されるように希望したいと思います。このままでは、河津が陸の孤島にならないかと心配するわけです。その辺はどのように考えますか。

A(町長)

伊豆縦貫自動車道は今年の3月19日に、河津-下田間の2期の一部ですけど、3km区間が開通したということでございます。これは部分開通で、全体が繋がってればいいですけど、繋がってなくて河津七滝インターと河津逆川インターの区間、3km区間だけが繋がったということです。それでも実際は、天城峠から越えて下田に行く方だとか、下田や南伊豆から沼津へ向かう方たちは、その道路を利用しているということが、統計上で示されています。5月3日の統計ですから、どういう状況だったかよくわかりませんが、多くの方が利用されているということも事実だと思います。

これは難しく大きな問題でして、私どもは伊豆縦貫道の全線、沼津から下田の60kmを早く通したいわけです。部分的な開通によって、大きな影響を受ける場所があります。その中で、将来的な私どもの考え方としては、どこで降りても周遊できるような部分が1番の理想の形です。どこかのインターで降りても、周遊して最終的には河津から乗るとか、河津からどこか行くとか、そのような形を目指して関係自治体みんな要望活動をやっているわけです。その中で何が1番大事なかなというのは、河津町にとって1番大事なものは、いかにして河津町の魅力を高めるかってこと。もう1つは、1日も早く天城峠区間を通すことだと思っています。今回、河津-下田区間の3kmが開通して、天城峠区間だ

けが事業決定をされてない道路で、20km残ったわけです。そこで私ども自治体で心配をしたのが、ここで1回止まってしまうと次の予算がなかなか取りにくくなるだろうなことで、実はこの半年間、去年の暮れあたりから、国交大臣と会ったりして、なんとか天城峠区間を認定してくれということで、その結果として、3月の末に月ヶ瀬から茅野まで約5.7kmは事業決定をされた。予算も調査費だけしかつかなかったですけど、決定をされたことが大きな意味があるということで、今後、予算をつけることによって道路は進むだろう。ただ、浄蓮の滝から河津はまだ残っておりますので、それも早く事業決定してもらいたいわけでございますけど。

ただ20km区間の工事、特に伊豆縦貫道の道路工事費というのは、全国的に見ても大変高いところあります。例えば、大体1km作るのに100億円ぐらいかかるんです。普通のところの倍以上のお金がかかっているということで、そして今言われているのが、天城峠区間の20kmが約3000億とか4000億円と言われております。河津-下田間の開通した部分を見ると、大体100億円ぐらい国がつけてくれているんです。そのままでいくと30年、40年かかっちゃうわけですから、私どもとしては、いかに100億を200億円にしてもらえば15年で完成するわけです。現実的に、設計を見るとトンネルが多いんです。ですから、お金さえ出せば早くできる可能性があるのかなと、そんな思いもあります。それで、河津-下田区間の2期と1期があるんです。2期というのは箕作まで、1期というのは箕作から敷根までですけど、実はこの経過を見てみますと、事業決定というのは1期の早かったです。現実的に工事が始まったのは、2期の河津から箕作までが早かったって結果があります。というのは、事業決定をするのに用地だとかいろんなことが解決できないとなかなか事業が進まないです。だからそういう面では、用地が早く決まれば天城峠が先にできる可能性もあるのかなと、そんな希望も持っております。10年ぐらい遅れて決定されたものが早くできているということもありますので、これから予算と用地をいかに確保するかというのは大きな問題なのかなと。

それともう1つは、河津へどうやって降ろすかという将来的な問題で、先ほど言ったように浜峰線と言って、役場の横の道路もそれを見据えた中で、早く作らなきゃならないという思いがあって、今年は測量の調査費をつけましたけど、少しでも理解を示しながら、取り掛かっていきたいということで、今まで動かなかった道路についても測量調査の予算を付けて動き出したところです。

もう1つは、東伊豆や下田の白浜と、近隣の市町と連携をしてやっていかなきゃダメだろうな。特に東伊豆については連携を強くしていかないとなかなか、インターから取れないだろうなと思いますし、そういう意味で、東伊豆町も国道135号なんかは止まるものですから、もう1つ迂回路として、横のアクセス道路も欲しいっていう希望もあるものですから、私ども伊豆縦貫道ができて、周遊できるためのアクセス道路ってどうしても重要なものですから、今後も、アクセス道路の要望も含めて要望していきたいなと思っております。確かに、できたことに大きな影響が出るということは承知しておりますけど、そう

いう中で、やめろとも言えないものですから、早く町としては、天城峠区間を通して欲しいと思います。それと並行して、道の駅は今考えてないですけど、湯ヶ野地区を中心として、お客さんを呼ぶ施設を作りたいなということで、どんなものになるかわかりませんが、今 15 人の委員の公共施設整備検討委員会をやりまして、サウンディングという民間の方たちの意見を聞きながら、跡地の利用を検討していきましようということも今年から、そういう組織を作って検討を始めておりますので、将来を見据えて、現状としてのいろんな捉え方を考えながらやっていきたいなと思っていますので。そんなことで是非ともご理解願いたいと思います。

(町民)

ぜひ危機感を持って、進めてください。

Q4

道路の話が出たものですから、それに関連してですけど、都市計画道路の浜峰線、これが今年、測量の予算を取ったってことですが、その関係で、これは今年度予算で未整備の地域、全域をやる予定になっているのかどうかということと、対象区域の建物とか工作物の調査、これらも含まれるのか。それから測量について地権者の承諾が得られるのかどうかということ、そしてこれは実施段階に入っている関係ですけど、公共事業の円滑な進捗を図るために、国とか地方を問わず、特に事業用地の取得とか保証交渉、環境問題等も含めてですが、これらを専門知識とか豊富な経験やノウハウを有する民間の専門機関、コンサルティング企業と業務委託契約を締結して、行政と連携して地権者と対応を行うというような、方策もとられているようですけど、大型事業とか難航している事案までに効果が期待できるということから、広く活用されている状況があるように聞いています。一般には、事業用地の取得が終われば、その事業は 90%完了したと言われているように、この計画道路でも、こうした専門機関の活用を図って行って、やることも必要と考えますけれども、こういう件について今後前向きに検討される用意があるかどうかという当局の姿勢をお伺いしたいという風に思います。

それから、役場まで現在の道路が完成して 10 年余りにわたって取ってきた間の事情などから、この先、計画道路を進展していくことは厳しい状況もあると思いますけれども、この道路は桜祭りのメインルートでもあるし、現状の道路事情のマイナスイメージを払拭して桜祭りのイメージアップにも繋がっていくものだと思いますので、先に、3月の定例議会で大川議員から、浜峰線に関する測量測定業務委託料の予算に関する町の本気度を問う質疑がありまして、それで町長の方からは、伊豆縦貫自動車道路のアクセス道路としても、町にとっても、将来的な利活用を図る大変重要な道路と認識し、まずは地権者の理解をいただき、測量から始めていくということで、予算付けしたというような、説明があり

ました。今後は、町の重要施策として、あらゆる手段を検討して、完成まで取り組んで欲しいと思います。

A(町長)

現実的な問題として町が事業を起こす場合に、民間の方たちの土地を利用する場合には、民間の方の理解を得なければ手を出さないっていうのは、現実の問題です。私も町長になって、その問題が課題であることは知っておりました。この問題は3代の町長が抱えた問題で、なかなか有力な地権者の理解を得られてなかったというのが現実的な問題でありました。ただ町としても、先ほど言ったように、記事にもあるように、伊豆縦貫道を見据えた時、どうしても重要な道路で630mが繋がってないわけです。その部分をどうしても今後は進めなきゃならないということで、令和4年の頃から地区の役員の方だとか、地権者の方にも声をかけて、集まってもらった中で、町の方向性として今年度、測量をやるってことで決めました。というのは測量の大事さというのは、今、基本的な線形と言いますか、道路の形があるわけです。ただ自分の土地が、どの程度かかってくるのかというのは分からなくて、交渉の中で大変重要な問題になってくるわけです。そのための基本測量ができないとダメだということで、まず個人の土地の測量をやって、そこに被せていこうと。それによって、お宅の土地はこういう形になりますよ、このくらいの面積が少なくなりますよとか、話ができるということで、本当に初歩的な部分ですけど、その部分をやるうということ考えております。それも地権者によっては、測量まかりならぬと言われると、なかなか手を出せないという問題もあります。当然、関係する隣の人もあるものですから、1人の人が測量できないと難しいわけですけども、それでも町としては、ぜひ理解を得るために今後交渉して、全部測量ができて、実際形として図面で落とせるようになれば、今は小さい図面なので、もっと大きいちゃんとした図面にしておくことによって、交渉に入れるだろうってことで。本当に初歩的な問題ですけど、とにかく地権者の理解を得て測量をさしてもらって、その上で線形と言いますか、道路の位置を決めていきたい、それが今やっていることでございます。本当に初歩的なことですけど、これを始めないと先に進めないということがあります。まず測量をやっていきたいということでございます。経緯については皆さん知っているかと思いますが、そのようなことは無視して、とにかく測量をやった中で新たな動きとして、区民の皆さんあるいは関係者の皆さんの理解を得て、進めていこうというのは今年度の予算の取り方でございました。今おっしゃっているように、将来的にもっと早く進めばいいですけど、まず測量自体ができないと次の話が全然もうできないということがありますので。

それでこの道路が難しいのは、その前後ができていて真ん中ができていないという道路です。ですから線形がなかなか組みにくいということもあります。入口が決まっていて、630mの中で仕事にしなければならないということもありますので。それが全体の計画であれば変えたりもできるけど、それがなかなか難しく、だからちょうど真ん中だけが残

ってしまったってことです。それで今、都市化決定されているので、将来的にはある程度、用地がまとまれば県の事業としてやってもらうような形を考えておりますけど、役場までは県が絡んでくれたんですけど、県は町が用地を固めたりした中で、初めて県が出てくるような約束事がありますので、町が進めなければならぬということもありますから、その上である程度見通しがついた中で、県がやってもらうような方向になると思います。大変、重要な道路だと思いますし、今までできなかったということもありますけど、それには地権者さんの理解がないと、なかなか進まないということもありますので、そのような覚悟を決めて、大変だったことも含めて理解を得ながらやっていきたいなど、そんなことで進めており、本当に初歩的な1歩だと思いますけど、やらないよりは測量さんも頼んでありますので、そこでやってもらいますので、専門的な方たちが入ってやってもらいますので、そういう中で理解を得られれば、測量ができるんじゃないか、そういう風に思っております。以上が状況でございます。

(町民)

あの道路ができることによって、沢田の子供たちの通学路が非常に安全になります。この重点施策、誰もが安心して暮らせるまちづくり、未来を作る人が育つ、2つ入っています。そういうことを考えると、今、第1歩が踏み出せたみたいですけども、あの道路ができると、沢田の子供たち、上峰の子供たち、それ以外でも、非常に経済的な意味だけじゃなくて、子供たちにとっても非常に重要なことだと思います。ぜひその辺は、総力を挙げてやっていただきたいと思っています。以上です。

Q5

メディアへの露出というか、テレビなどに河津が取り上げられるとたくさんの方がこの町のことを、知るきっかけになるかなと思うんですけども、昨年大河ドラマで、内容が頼朝で、この町にも頼朝絡みのお寺さんとかいくつもあって、いろいろな言い伝えを耳にしたことがあるんですけども、大河ドラマの後に町の紹介みたいな、そういうところで河津が残念ながら出てきませんでした。私は神奈川から12年前に移住したもので、神奈川に友人が多いですけども、あなたの町のことが出てこなかったねというメールをたくさんいただきました。

また去年は川端康成さんの節目の年でもあったし、そういったことを考えると、どのようにリサーチして、誘致して、プロモーションしているのかなっていうことを伺いたいと思います。

A(町長)

おっしゃる通りかなという感じもしますが、ただそういうことじゃなくて、町だけで

はなくて観光事業者、観光協会とかとそんなことをやっていかなきゃならないと。一緒にやってやっているにはやっているんですが、ただどうやってPRしていくかとか、まだまだ弱いなと私自身も感じております。それでどうしても、先ほども話したんですけど、行政だと行政なりのアピールしかできないです。今回DMM.comという方に来てもらったのは、シティプロモーションという町を宣伝する仕事をうまくできないのかなということ、外から見た部分の方のご意見を聞きながら、PRをしていこうってことで、シティプロモーションという形になっておりますけど、そんな意味も含めて外の方に、ある程度、力を借りてということもあります。

それともう1つ、観光もそうですけど、普段の付き合いの中で河津を好きになってもらうとか、関心を持ってもらって、これから関係人口をいかに作るかっていう部分が大事ですし、おっしゃるように、観光客もこれからはもっと大事になってくると思います。というのは、人口もどんどん減っているの、経済的にどんどん商売が大変になってく苦しい状況になる。それに生活していくためには、よそから来た人たちをいかにして取り込むかというのもの、大事であると思いますし、住まないにしても交流できるとか、好きになってもらうということに興味を持ってもらうとか、これからはPRを観光だけでなく、いろんな面で、河津を好きになってもらうという部分で関係人口創出になると思う。それで住んでもらえば1番いいわけですけど、住んでもらうことが難しければ、そういう関係人口で定期的に来る人を作るとか、興味を持ってもらう人を作るとかということが大事だと思います。

これからは涅槃堂もそうですけど、いろんな分野、幅広いです、興味は。そういう意味で観光もそうですし、もう少し宣伝のやり方というのも今後変えていかなきゃならないし、DXという色々な情報ツールを使って、やることも必要だと思いますし、行政だけではできないこともいっぱいあるなと思います。特に私なんか思うには、イズーさんなんかを見ていると、すごいなって。民間で宣伝力があつたりとかで、当時の10何倍というお客さんが来ていますよね。昔のアンディランドの時に比べると。あれだけの宣伝力があるってことで。町も色々な切り口を見つけた中でやっていかなきゃいけないし、ちょっと具体的に浮かばないですけど、例えば物語にするのか、例えば時間にするのか、場所にするのか、いろんな切り口があると思うんです。例えば2時間、時間があつたらどこに行けばいいですよとか紹介をできたりとか、いろんな宣伝のやり方がありますし、先ほどの頼朝伝説も興味を持つ人に回ってもらうとか、いろんな切り口を持ってやらないとダメだろうなど。今までの観光の形ではないような気がします。幅広い情報をどうやって流していくのか、どうやって捕まえていくのかというのは、1つの課題だと思います。そういう面では、行政としてはまだまだ下手なのかなと思います。回答になったかわかりませんが、お願いします。

Q6

東京 23 区ではないですけど、河津町に移住したいという相談を受けたりするんですけど、23 区以外の人にも、特典とか空き屋の紹介とか、担当に言えば相談に応じてくれるでしょうか。

A(企画調整課長)

先ほどの移住支援の支援金とか、そういったものに関しては、首都圏の方から人口の方を持っていきたい、静岡県に持っていきたいというような意味合いもありますから、支援金の対象っていうのは、23 区内に住んでいたとか、それも過去 10 年間で、5 年間、学生でも勤務でも結構ですけども、そういった条件がございます。支援金については、そういった条件がありますので、23 区内に住んでないとか、近くに住んでいない方は対象にならないかなと思いますけど、例えば空き家バンクとか、空き家バンクを使った時の補助金というのは、制限はございませんので、色々なご協力ができるのかなという風に思っていますので、その辺も合わせて総合的に、相談とか案内は受け付けておりますので、町の企画調整課の方へご連絡いただければという風に思います。

Q7

いつもバガテル公園の綺麗な花を無料で見させていただいて、ありがとうございます。私的には、町民も少し負担して、よそから来たお客さんに少しでも安くしたらどうかと思っていましたが、こちらの対応を見ると、今年も無料でいいということで、それはありがたいですけども、いつも毎年見に行ってしまうんですけど、池がありますよね。昔はもっと綺麗だったと思います。鯉とかもいたような気がして、蓮の花が咲いたりもしました。毎年行った時に、必ずあの池を見るんですけど、濁っちゃって何がいるのかもわからないし、お客さんもさほどそこを見る方もいないかもしれないんですけど、やっぱり池があるんだから、もうちょっと手入れをして、ここも綺麗だねと思ってもらえるような、措置を取っていただけたら、また 1 つそこに見に来た喜びというのも出ると思うんですけども、いかがでしょうか。

A(町長)

私も思うんですけど、常に手入れをできているというのが、1 番いいかなと。私になっ
て手を加えたつもりですけど、池も 1 度入れ替えをしたんですけど、なかなか難しい状況もありまして、実は言い訳になっちゃうんですけど、あそこは調整池という役目です。池ではなくて、どうしても土砂が流れ込んでしまうっていうこともあります。あそこは水がないですから、下からポンプアップして流しているような状況もあります。

なんとか工夫をして、綺麗にできればいいかな。確かに睡蓮も、モネの睡蓮と言って有名な睡蓮なので見ていただきたいし、考えてみたいと思います。